

アディポネクチン

アディポネクチンは脂肪細胞から分泌される「善玉のホルモン」です。

実は、脂肪細胞からは、さまざまなホルモンが分泌されています。

そのなかでアディポネクチンは、動脈硬化や糖尿病を抑制する働きをしています。

内臓脂肪が多くなると、アディポネクチンの分泌は減少し、メタボリック症候群を発症するリスクが高くなります。

しかし、生活習慣の改善（適度な運動やバランスの良い食事等）を行うことで、増加させることも可能です。

平成 29 年度から、徳島大学病院・糖尿病対策センター、船木真理特任教授の監修を受け、当機構においても測定を導入しました。